

平成29年度 学校評価実施報告書

学校名 (久世中学校)

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

- 確かな学力の育成に向けた授業改善。
- 家庭学習時間の習慣化。
- 読書活動の習慣化。

具体的な取組

1. 確かな学力の育成に向けた授業改善

- ・毎時間、授業の目標を提示し、課題に応じたまとめと振り返りを行うことを徹底。
- ・言語活動の充実と、「思考力・判断力・表現力」などの効果的な育成。
- ・すべての教職員による年1回以上の授業研究の実施。
- ・小中合同教科主任会による学力分析と対策の検討。
- ・授業にリンクした家庭学習課題の設定。
- ・学習確認プログラムの活用の徹底。
- ・久世三校合同研究発表会の実施。
- ・年2回の公開授業週間の実施。
- ・「久世スタンダードVer.2」(生徒版)の活用した学習規律の徹底。

2. 家庭学習の習慣化に向けて

- ・「久世三校版 家庭学習のてびきVer.2」の配布とその活用(生徒・保護者へ啓発)
- ・「家庭学習ノート」の活用。

3. 読書活動の習慣化に向けて

- ・朝読書の充実。
- ・学校図書館、地域図書館の利用啓発。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート ②「授業がわかりやすいこと」、③「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動があること」、④「どの授業も集中して大切にすること」、⑤「家庭で1時間以上学習すること」
- ・学習確認プログラムの結果。
- ・全国学力・学習状況調査の結果。

各種指標結果(1回目)

・学校評価アンケート

生徒…「朝読書」は、やや実現度が高い。「学校外の読書」はあまりできていない。家庭学習の時間はあまり確保できていない。授業がわかりやすいとは、あまり感じていない。

保護者…読書を促すことはあまりできていない。学習に取り組ませるよう働きかけることはあまりできていない

教職員…「朝読書」を促すことは、やや実現度が高いが、「学校外の読書」を促すことはあまりできていない。授業の改善や宿題について、十分にできているとは感じていない。

・学習確認プログラム…各学年、概ね全市平均前後

・全国学力・学習状況調査…国・数、概ね全国平均を上回る。家庭学習時間は1時間以上勉強しているクラスタは全国平均並み。「読書」は全国平均を下回る

| | | |
|-----------------------|---|-----------------------|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝読書は習慣化できているが、それ以外での読書の機会は不十分である 家庭学習の習慣化は未達である。また、授業改善は十分とは言えないが、学習確認プログラムでは概ね全市平均程度、全国学力・学習状況調査では概ね全国平均を上回る結果は出ている | |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝読書以外での読書の習慣化については、委員会活動や、図書館教育係の指導の充実を図っていく。特に図書支援員との協力を今後も推進していくべきと考える 家庭学習の課題設定の改善や、授業改善は、各調査の結果では十分とはいえないが、これは常に改善をしていくとする、現状に満足しない教員の向上心が一つの要因と考える。課題や授業の内容を考えるための時間として、教科会や研修の充実を目指したい | |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学習確認プログラムにおいて指数 100 を超える教科や学年が増加傾向にあることや、全国学力・学習状況調査の国語 A・国語 B・数学 A では全国平均を約 2 ポイント上回るなど、ここ数年の取組の成果がでているように思われる。「学力分析と対策シート」を活用した P D C A サイクルの取組を引き続き進めてほしい。家庭学習時間の増加など家庭学習の定着を目指し、保護者の理解と協力を得るため、P T A と連携した支援を進めたい</p> | |
| | <table border="1"> <tr> <td>評価日 平成 29 年 10 月 19 日</td> <td>評価者 共同機構久世学校運営協議会</td> </tr> </table> | 評価日 平成 29 年 10 月 19 日 |
| 評価日 平成 29 年 10 月 19 日 | 評価者 共同機構久世学校運営協議会 | |

各種指標結果（2回目）

・学校評価アンケート

生徒…「朝読書」は、やや実現度が高い。「学校外の読書」はあまりできていない。家庭学習の時間はあまり確保できていない。授業がわかりやすいとは、あまり感じていない、といった全体としての傾向は大きく変化はしていないが、概ね実現度は1回目調査よりも向上していた。

保護者…読書を促すことはあまりできていない。学習に取り組ませるように働きかけることはあまりできていない、といった傾向は変化していない。実現度の値は下降気味であった。

教職員…「朝読書」を促すことは、やや実現度が高いが、「学校外の読書」を促すことはあまりできていない。授業の改善や宿題について、十分にできているとは感じていない、といった傾向は変化していないが、概ね実現度は1回目調査よりも向上していた。

・学習確認プログラム…各学年、概ね全市平均前後

| | |
|------|--|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝読書は習慣化できているが、それ以外での読書の機会は十分であるとはいえない。 家庭学習の習慣化は未達である。また、授業改善は十分とは言えないが、学習確認プログラムでは概ね全市平均程度である |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝読書以外での読書の習慣化については、委員会活動や、図書館教育係の指導の充実の推進が継続されている。わずかながら、読書の習慣化に関する実現度の向上が見られたこともあり、今後も取り組みを続けたい。 家庭学習の課題設定の改善や、授業改善は、今回の調査の結果でも十分とはいえないが、前回調査でも記述したとおり、教員の向上心が一つの要因であろう。今後の授業改善のポイントとして、目標に準拠した評価をより意識していくように働きかけを行うことも必要と考える。 |

| | |
|-----------------------------|--|
| 学校 関 係 者 評 価 | 学校関係者による意見・支援策 |
| | 学力向上の一つの指針である学習確認プログラムにおいて、全市平均または全市平均以上の教科や学年が増加している反面、十分伸びし切っていない教科がある。よいモデルを参考に引き続き「学力分析と対策シート」を活用したP D C Aサイクルの取組を推進してほしい。 |
| | 読書活動の習慣化に向けて、「久世のむかしばなし」などの地域教材の活用、小学校における親子読書活動などを連携した取組を模索するのも一考だと思われる。 |
| | また、家庭学習の習慣化に向けては、引き続き保護者や地域の協力を仰ぎながら取組をすすめてほしい。 |
| 評価日 | 平成30年 3月 2日 |
| 評価者 | 共同機構久世学校運営協議会 |

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。
- 「おもてなしの心（目の前の人を大切にする精神）」の育成。
- 道徳教育の充実。

具体的な取組

1. 体験的な活動を通して子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。
 - ・他者との関わりの中で、参加するすべての生徒が自己有用感を獲得するよう、年齢の差、経験の差を利用したお世話活動を展開する。（中学生と園児など）
 - ・そこで得た意欲や感情を定着させるため、十分な事前・事後学習の場を準備する。
 - ・校内に3年生をリーダーとした好ましい関係を構築するため、3年間を見通した取組の中で育てる。
2. 「久世教育機関協働協議会」（保育園、小学校、中学校、児童館、図書館）が協働して、あいさつと読書を中心に取り組み、育ちと学びの連続性を高める。
3. 「あいさつ」を通して、人と人とのつながりを大切にするなど、コミュニケーション能力を育成する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学校評価アンケート ①「楽しく学校生活を送る」
- ・「私の学校生活」しらべ（社会性変容調査）の主要項目。

各種指標結果（1回目）

【学校評価アンケート】

「子どもが学校や社会のルールを守ること（実現度）」 1年生 5.3 2年生 5.4 3年生 5.5 保護者 5.2

「相手の気持ちを考えて行動すること（実現度）」 1年生 5.4 2年生 5.4 3年生 5.5 保護者 5.3

・社会性変容調査

「自己肯定感」 今の自分が好き 1年生 3.10 2年生 3.11 3年生 3.23

長所がいろいろ 1年生 3.32 2年生 3.16 3年生 3.30

「自己有用感」 クラスの役に立っている 1年生 3.20 2年生 3.15 3年生 3.24

他学年の役に立っている 1年生 3.18 2年生 3.05 3年生 3.34

| | | | | | |
|---------|---|-----|-------------------|-----|---------------|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校や社会のルールを守ること」と「相手の気持ちを考えて行動すること」の実現度が高いと思われるが、それよりも重要度がどこ学年も平均 6.5 と高い。全体的に規範意識が芽生え、定着したと思われる。 「自己肯定感」と「自己有用感」は少しづつ上昇しているのだが、まだ十分とはいえない。 | | | | |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 引続き、ピア・サポート活動と道徳教育の充実、「おもてなしの心」育成のための活動を充実させ、積極的に取り組む。 行事や、日常生活にある生徒の成長や成果など、小さいことでも見逃さずに「認める」声掛けや、行動を教師側が大切にすることで、生徒の自己肯定感と自己有用感をあげたい。 | | | | |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校や登下校など子どもたちのようすを見ていると、穏やかで落ち着いた学校生活を送っているようすが伺える。これまで以上に子どもたちの自己有用感を高めるため、大藪小学校・久世西小学校との連携を続けながらピア・サポートの取組を推進してもらいたい。</p> <p>また、ピア・サポートについて保護者の理解と協力をさらに得るための啓発方法など学校運営協議会として支援できる方策を提案していきたい。</p> | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>評価日</td><td>平成 29 年 10 月 19 日</td><td>評価者</td><td>共同機構久世学校運営協議会</td></tr> </table> | 評価日 | 平成 29 年 10 月 19 日 | 評価者 | 共同機構久世学校運営協議会 |
| 評価日 | 平成 29 年 10 月 19 日 | 評価者 | 共同機構久世学校運営協議会 | | |

各種指標結果（2回目）

【学校評価アンケート】

「子どもが学校や社会のルールを守ること（実現度）」 1年生 5.8 2年生 5.9 3年生 6.2 保護者 5.0

「相手の気持ちを考えて行動すること（実現度）」 1年生 5.6 2年生 5.7 3年生 5.9 保護者 5.0

・社会性変容調査

「自己肯定感」 今の自分が好き 1年生 3.17 2年生 3.16 3年生 3.27

長所がいろいろ 1年生 3.33 2年生 3.15 3年生 3.42

「自己有用感」 クラスの役に立っている 1年生 3.17 2年生 3.11 3年生 3.34

他学年の役に立っている 1年生 3.16 2年生 3.11 3年生 3.16

| | |
|------|---|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校や社会のルールを守ること」と「相手の気持ちを考えて行動すること」の実現度が 7 月と比較すると少しではあるが高くなっている。保護者アンケートによる実現度が前回よりも「-0.2」と少し矛盾を感じるが、生徒自身の規範意識は高まっていると思われる。 「自己肯定感」と「自己有用感」は少しづつ上昇しているのだが、「他学年の役に立っている」が低下している。部活動の 3 年生の引退等で、自分が役に立てているように上手く思えていない生徒が増えてきたと思われる。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 引続き、ピア・サポート活動と道徳教育の充実。 行事だけでなく、日常生活、授業、部活動などで、生徒の成長や成果を認める取り組み、声掛けを大切にする。特に、「他学年の役に立っている」ことを実感させる仕掛けと場面を、教師側が作り、生徒の自己肯定感と自己有用感をあげたい。 |

| | | | |
|---------|--|-----|---------------|
| 学校関係者評価 | ここ数年子どもたちが落ち着いた学校生活を送っているようすが感じられる。久世三校で「ピア・サポート」の取組を推進している効果だと感じる。子どもたちの自己有用感を高めるため引き続き久世三校で連携して取り組んで欲しい。 また、来年度から小学校で道徳の教科化が先行実施されるが、道徳教育の充実のため小学校・中学校の公開授業を参観するなど、久世学校運営協議会理事会として支援策を積極的に提案していくたい。 | | |
| 評価日 | 平成30年 3月 2日 | 評価者 | 共同機構久世学校運営協議会 |

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- 基本的生活習慣の確立。
- 保健教育の充実。
- 防災教育の充実。
- 組織的な部活動の運営。

具体的な取組

1. 「久世教育機関協働協議会」において、「早寝・早起き・朝ごはん」及び「あいさつ」「家庭内のコミュニケーション」運動を展開することにより、望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。
2. 1年生で「防煙教室」「ケータイ教室」、2年生「非行防止教室」、3年生「薬物乱用防止教室」と計画的に実施し、正しい知識を知り、自分で正しい判断ができるようにする。
3. 「久世ふれあいトーク」で健康や安全、また身近な話題や様々な問題について地域の方と話し合う。
4. スポーツや文化、科学など、生徒が自分の興味や関心に応じて自主的、自発的に活動する中で、それぞれの個性や能力を伸長したり、社会性や人間性を育む様々な経験を積んだり、生涯の友人を得たりする教育活動の一つとして部活動の運営。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）。
- ・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の開催。
- ・全国学力・学習状況調査生徒質問紙。
- ・部活動参加率

各種指標結果（1回目）

- ・学校評価アンケート

「朝食の喫食（実現度）…1年生 6.0 2年生 6.0 3年生 6.0 保護者 5.5 教職員 3.9」

「7時間以上睡眠（実現度）…1年生 5.0 2年生 4.9 3年生 4.9 保護者 4.8 教職員 4.1」

- ・7月4日に3年生「薬物乱用防止教室」、7月6日に1年生「ケータイ教室」、7月11日に2年生「非行防止教室」を生徒指導課担当課長に講師をお願いして実施した。1年生「防煙教室」については、日程の都合でまだ実施できていないが、今年度中に開催できるよう日程の調整している。

- ・全国学力・学習状況調査生徒質問紙

朝食の喫食、同じ時刻に就寝・起床などは、全国平均を2～5ポイント上回っている。

- ・運動部参加率 65%、文化部参加率 25%で約 90%の生徒が部活動に参加している。

| | | | |
|-----------------|--|-----------------|-------------------|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食率は約 94%と昨年より少し上昇している。また、毎日ほぼ決まった時間に就寝、起床している生徒は約 90%であり、基本的生活習慣を実践する力が少しずつ育まれている。 薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなどゲストティーチャーによる各種教室の開催が定着しつつあり、学校や家庭、地域での生活にもその効果が伺える。 約 90%の生徒が部活動に参加しており、自主的、自発的な活動が見られるようになった。 | | |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状に満足することなく、久世教育機関協働協議会を連携の柱として、基本的生活習慣の確立に向け、実践する力を育てる取組を推進する。 生涯学習の観点を取り入れ、子どもたちの行動に結びつく取組を、保護者、地域とともに推進する。 部活動に参加している生徒にとって、達成感や満足感といった感動を集団で共有する場、生涯の友を得る場となるよう組織的な運営を推進する。 | | |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>朝食の喫食率や内容の充実など基本的な生活習慣の確立に向け、久世教育機関協働協議会（校区の保育園、児童館、小学校、中学校、図書館）と課題を共有して、自ら実践する力を育てる取組を推進してほしい。</p> <p>また、基本的な生活習慣の確立や保健教育の充実に向けて、久世PTA連合理事会とも連携して支援をしていきたい。</p> | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>評価日 平成29年10月19日</td><td>評価者 共同機構久世学校運営協議会</td></tr> </table> | 評価日 平成29年10月19日 | 評価者 共同機構久世学校運営協議会 |
| 評価日 平成29年10月19日 | 評価者 共同機構久世学校運営協議会 | | |

各種指標結果（2回目）

・学校評価アンケート

「朝食の喫食（実現度）…1年生 6.0 2年生 6.0 3年生 6.0 保護者 5.5 教職員 3.9」

→ 1年生 6.1 2年生 6.1 3年生 6.1 保護者 5.2 教職員 4.7」

「7時間以上睡眠（実現度）…1年生 5.0 2年生 4.9 3年生 4.9 保護者 4.8 教職員 4.1」

→ 1年生 5.0 2年生 5.0 3年生 4.8 保護者 4.5 教職員 4.5」

・1年生「防煙教室」については、日程の都合で今年度中には開催できなかった。

・運動部参加率 65%、文化部参加率 25%で約 90%の生徒が部活動に参加している。

| | |
|------|--|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食率は各学年とも 0.1 ポイント上昇している。7時間以上睡眠している生徒はほぼ変わっていない。喫食の大切さ、食事の内容、睡眠時間の確保、余暇の過ごし方など基本的な生活習慣の定着にはまだまだ課題がある。 部活動について、年度初めより転部や退部した生徒も若干いるが、約 90%の生徒が部活動に参加している。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食、栄養バランス、十分な睡眠時間の確保、余暇の過ごし方など基本的な生活習慣の定着に向け、久世教育機関協働協議会、生徒会保健委員会など連携しながら、保護者、地域への啓発を継続する。 |

| | |
|-------------------------|--|
| 学校 関係 者 評 価 | 学校関係者による意見・支援策 望ましい生活習慣の確立や健康の保持増進に向け、「命を守る」視点から子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて自律的な行動ができるよう久世教育機関協働協議会、久世P T A連合理事会と連携しながら引き続き取組を進めてほしい。 また、久世学校運営協議会理事会の環境・安全支援委員会がどのような後方支援ができるか検討を進めたい。 |
| | 評価日 平成30年 3月 2日 評価者 共同機構久世学校運営協議会 |

(4) 学校独自の取組

| | |
|------------------|---|
| 重点目標 | 小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進。 |
| | <p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の充実。 共同機構久世学校運営協議会（小中合同）の充実。 学校運営協議会を支える学校支援推進委員会の充実。 |
| (取組結果を検証する) 各種指標 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員） 「私の学校生活」しらべ（社会性変容調査）の主要項目。 小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の実施回数。 |
| 各種指標結果（1回目） | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート 「小中一貫教育の推進（実現度）‥保護者 5.2 教職員 3.7」 始業式前の4月3日、8月23日に久世三校小中合同研修会を開催した。 5月15日、9月5日に久世三校小中合同教科主任会を行い、学力分析と対策について共通理解を図った。 |
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の「小中一貫教育構想図」を提示し、これまで取り組んできた小小連携を基盤とした小中一貫教育の意義や今後の取組に向けての方向性が共有できた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分で考えて行動する子どもの育成」という小中一貫教育の目標を踏まえ、9年間を見通した学習指導、生徒指導を推進する。 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>大藪小学校、久世西小学校、久世中学校の久世三校の行事や取組などを見ると、小小連携を基盤とした小中一貫教育が推進されていることが実感できる。</p> <p>「久世の子どもたちの9年間の学びと育ちについて責任を持つ」という風土が学校だけでなく、保護者や地域に定着しつつある。学校運営協議会としてもどのような支援ができるのかこれからも議論していきたい。</p> |
| | 評価日 平成29年10月19日 評価者 共同機構久世学校運営協議会 |

各種指標結果（2回目）

・学校評価アンケート

「小中一貫教育の推進（実現度）‥保護者 5.2→4.9 教職員 3.7→5」

- ・11月16日に久世三校合同授業研修会を開催した。
- ・11月から小中教員交流（久世中→大藪小・久世西小、大藪小・久世西小→久世中）を行い、4名の教諭が体験した。
- ・2月23日に久世三校小中合同教科主任会を行い、学力分析と対策について共通理解を図った。

| | |
|---------|---|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・年度後半も小中連携行事は、計画的に進めることができた。ただ、保護者や地域に十分広報できていない場面が見受けられた。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・年度初めに久世三校すべての教職員が、課題を明確にして、分析とその対策の共通理解を図り、取組を進めることが大切である。・久世三校の小小連携を基盤とした小中一貫教育をより確かなものにするため、いろいろなツールを活用して保護者や地域に広報していく。 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教職員の異動がある中、久世三校で取り組んでいることの意義や、「ピア・サポート」について研修はたいへん大切だと感じる。管理職以外の部署での連携が重要だと考える。</p> <p>また、小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進に取り組んでいることやその意義を、さらに保護者や地域に広報していくことも合わせて進めてほしい。</p> |